

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470700713
法人名	有限会社 ころ
事業所名	グループホーム ころ
所在地 (電話番号)	松阪市八重町485-2 (電話) 0598-63-0987
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年4月14日(月)

【情報提供票より】 (H19年4月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円程度
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	84.5 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松阪中央総合病院 中村クリニック 大市歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな田園風景と山並みを眺望できる恵まれた環境に位置している懐かしい雰囲気の佇まいのホームである。高齢者福祉に熱意をもって取りくんでいる経験豊かな看護師であるホーム長のもと職員も理念「その人らしい生き方を尊重して生活の援助を行う」を共有し、利用者一人ひとりの希望や意見を尊重し「あの人に会いたい」「故郷訪問」や「孫の結婚式に出席」など個々に対応している。玄関先の山法師の木陰にあるベンチで、職員が朝刊を読み聞かせ、利用者の意見や興味を引き出している光景は和やかで楽しいものでした。家族から「母がこのホームに入居して自分の気持ちを主張するようになった」等の感謝の声が多くある。笑顔とユーモアの絶えない、優しい時間が流れているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査の改善課題であった「時の見当識への配慮」と「相談・苦情への対応」についてはいずれも直ぐに工夫し改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長はじめ全職員、調査の意義・目的をよく理解して課題の検討・改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	松阪市保健福祉部・包括支援センター・民生委員・家族代表・利用者代表・職員が出席し、前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項についてその経過を報告している。また、これまでの評価結果を踏まえ現在取り組んでいる内容についても報告し、意見を出してもらおうようにしている。それらをサービスの向上に具体的に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	グループホーム ころ の「たより」に利用者個々の通信欄を設け、そこに現状を報告し、少しでも家族が苦情・要望・意見を言いやすいように配慮している。また家族の訪問時何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。それらからでた意見などは運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に隣家にお邪魔したり、おすそ分けをいただいたり日常のお付き合いや関係作りも丁寧に行っている。また老人会に利用者と一緒に参加している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生き方を尊重して生活の援助をおこなう」をホームの理念としているが、基本方針で「家族や、ボランティア、地域との交流が自由にできるよう配慮する。」とし具体的なイメージを持って地域密着型サービスの意義を職員全員で確認している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念についてケア会議ごとに話し合い、また日々の申し送り時などでも確認しあうようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に隣家の花を見せてもらったり、おすそ分けをいただいたり、隣近所と馴染みの関係を築いている。また老人会の集まりに利用者と一緒に参加している。今後、夏祭りや花火などに参加予定がある。	○	運営推進会議で、包括支援センターからも「地域の高齢者とのつながりを支援する」との意見もある。認知症介護の専門家としてホームの力を地域の高齢者などの暮らしに役立つよう取り組まれることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員が理解しており、サービスの質の確保に活かしていく姿勢がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、自己評価や外部評価を説明して、話し合い、そこで出た意見をサービス向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と連絡を密にとり、常に情報を得るようにしてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「グループホームこころのおたより」に利用者個々の通信欄を設け、利用者の暮らしぶりや健康状態などを定期的に報告をしている。またその際、金銭管理の領収書なども同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や手紙また訪問時に常に問いかけ、どんなことでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代がある場合は利用者へのダメージが極力すくなくなるように配慮し馴染みの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験豊かな看護師であるホーム長のもとホーム内でリハビリや救急法などの勉強会を常に行い、全ての職員を地域密着型サービスの従事者として育成に努めている。また資格取得など、個々の目標に向かって勉強できるように支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流の機会を持ち積極的な情報交換がおこなわれていてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		本人にはできるだけ時間をかけて雰囲気に慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうことに努めたり、体験入居をしてもらうこともある。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		ホーム内の菜園を季節ごとに利用者から教えてもらいながら作り、献立の一品とするなどの楽しみごとになっている。また朝刊の読み聞かせで職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身の意見を出せる場面作りの支援をしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		東京センター方式のよいところを取り入れながらホーム独自のものを検討している。本人にできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら日々の表情や行動から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		家族や居宅ケアマネージャーと話し合い、ホームのケアマネージャーと担当職員(1人の利用者に2名の担当者がいる)でプランを作成し職員全員で共有して介護に活かしている。
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		毎月のケア会議(全職員参加)でモニタリングを行い、変化があれば見直し、3ヶ月ごとの評価を行い、家族の意見も聞きながら介護計画を更新している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の孫の結婚式に職員が付き添い出席をしたり、本人の希望で故郷に出かけ懐かしい場所や親戚に会うなどの柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続している。家族か看護師であるホーム長が同行し、医師からの話や注意事項を日常生活の適切な支援に役立てている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の理解や往診医療の協力を得て、家族とも繰り返し話し合い、全員で共有する。	○	ハード面で困難なこともあるとおもわれるが、家族からの希望もあり、またホームの熱い想いでターミナルケアへの取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら接している。また個人情報保護についても良く理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム ころ の理念である「その人らしい生き方を尊重して生活の援助を行う」を実践し、職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切にして日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材(つくし、筍、さやえんどう、そら豆、枝豆など)の下ごしらえなどを利用者と職員と一緒にやっている。「この食事は美味しいからまた食べにおいで」と利用者から調査員に声かけがある楽しい食事風景であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの意向をたいせつにして、くつろいだり気分よく入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしている。(畑仕事、生け花、俳句など職員を生徒にして経験を発揮する場面を作っている)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候がよければ、日常的に戸外に出かけている。一人ひとりの脚力や気分に合わせて遠・中・短距離の散歩コースがある。個々の希望を聞き取り、墓参りや喫茶店など普段行きにくいところにも支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守り職員を決めており、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。また近隣の方にも理解をしてもらい、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回 避難訓練を行っている。非常食担当職員がおり、水や食料は賞味期限に注意して3日分を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの体重の増減を常にチェックし、栄養の偏りや水分不足にならないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは季節の花々や草木で季節感を採り入れており、だれでも安心して訪問しやすい家庭的な雰囲気作りの工夫がある。また共有スペースには畳コーナーや手入れの行き届いた菜園に行く事ができるテラスもある。五感刺激への配慮は随所にみられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室に仏壇や使い慣れた物品など居心地よく過ごせる工夫がある。家族などの面会時は居室で湯茶・菓子など個々の楽しみ方をしている。		